

# まこと

*Volume 63 No.6*  
*JUNE 2016*



青年会本部より山澤昭造副委員長を迎え「青婦女子青年合同総会」を5月14日に開催

*Tenrikyo Mission Headquarters of Hawaii*

# リレー巻頭言

1970年4月、教祖御誕生祭に私は初めておぢばに帰らせていただきました。その年は、18日の教祖御誕生祭の日から本づとめが10日間連続で勤められ、本部はたくさんの人の活気で満ちあふれていました。また、同じ時期に大阪万博が開催されており、御誕生祭と万博に行く人を乗せたたくさんのバスが連日おぢばに来ていました。私にとって初めてのおぢばがえりで、おぢばで過ごし、その陽気なお祭りの雰囲気圧倒され、心から感動しました。

私はその時、カリヒ教会の次の会長になるための準備でおぢばに帰っておられた山ロナルド先生と一緒に3カ月の修養科に5月から入らせていただきました。その当時は英語クラスがなかったもので、日本語クラスに他の方々と一緒に入らなければいけませんでしたが、山先生に助けてもらいながら、3カ月の修養科を無事に修了させていただきました。とても充実して、自分を見つめ直させていただけただけ3カ月で、終わるのが寂しく感じました。

山先生は牛込大教会の所属で、ある日私を牛込詰所に招待してくれました。まだ真新しいとてもきれいな詰所でした。その時私を、当時の牛込大教会長である尾崎栄治先生に紹介して下さいました。

尾崎先生の第一印象は満面の笑みで「なんて陽気で明るい方なんだ」と思いました。先生と握手をし、両手を広げて私を歓迎して下さいました。先生の優しい笑顔に私はとても心地よさを感じました。また、先生は詰所内を案内して下さい、先生には初めてお会いしましたが、私を昔からよく知っている大切なお客さまのようにもてなして下さいました。3カ月の修養科の間に私は何度か牛込詰所に行きましたが、先生にお会いするといつも大きな優しい笑顔であいさつをして下さり、私に安心感を与えて下さいました。先生は帰参される方々にも、修養科生

にも、誰にでも同じようにあいさつをされていることに気がつきました。その後、私が帰参して、たまたまどこかでお会いした時は、同じ笑顔であいさつして、私の心を勇ましてくれる言葉を掛けて下さいました。

今年の1月、教祖130年祭におぢばに帰らせていただき、私たちの団体は38母屋に宿泊していました。毎日教会本部に行く時、牛込詰所の近くを通りました。私は46年前に初めておぢばがえりをした時の、牛込大教会3代会長である尾崎栄治先生の人柄に感動し、いつも同じように暖かく接していただいたことを思い出しました。

故尾崎栄治先生は天理教の教理に関する本を何冊も出版されました。先生のご遺徳を偲んで、先生の著書の一冊である英語にも訳されてあります「しあわせを呼ぶ心」からの抜粋文を紹介させていただきますと思います。

親神を信じ、理一つに心を治めて通るなら、  
どんなどころも親神はふんばって下される。  
親の言葉一つに心を結び、親の思召一つに心を治めてつとめるなら、親神はいかようにも働いて下される。世界たすかる「だめの教え」のこの道に、お互い人間が、真実の心をよせ合って勇んで運びつとめることが、最も肝腎なことといわねばならない。人間が先案じをし親を疑って通るところには、一層「迷い」「案じ」「疑う」迷路に踏み迷う結果となるものである。親を信じて歩むことこそ、明るい喜びの明日への道であり、幸せへの要諦である。

最後に、山ロナルド先生にそのような謙虚で、すばらしい誠真実の道の先輩に出会わせていただいたことにお礼を申し上げて、エッセーを終わりたいと思います。

【岩田メルビン】

# 5 月 月 次 祭 祭 文

これの神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に、ハワイ伝道庁長山中修吾、一同を代表して、慎んで申し上げます。

親神様には教祖をやしろにこの世の表にお現れ下さり、人間創造の元の真実をお明かし下され、私たちを陽気ぐらしへと導く道をおつけ下さいました。私共はこの真実の教えを胸に日々親神様の御守護を感じご存命の教祖のお導きを信じて、喜び勇んで暮らさせていただいておりますが、その中でも本日は当伝道庁の5月月次祭の日柄を迎えましたので、只今よりおつとめ奉仕者一同心を合わせ、座りづとめ・てをどりを陽気に勇んでつとめて世界たすけへの真剣な祈りを捧げさせていただきます。御前には今日一日を楽しみに寄り集った道の兄弟姉妹が、真心を込めてみかぐらうたを唱和し祈念する状をもご覧下さいまして、親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます。

先月末から今月にかけてハワイの各会場にて開催された「全教一斉ひのきしんデー」には大勢の参加者が集まり、親神様の御守護への感謝と信仰の喜びを行動に表し、地域社会への大きなをいがけとなりました。今後も管内のよふぼく信者一同が互いに勇ませ合ってひのきしん・にをいがけに励ませていただき、常におたすけの意識を持ち周囲に心を配り、一人でも多くの方々に御教えを伝えさせていただきたいと存じます。また昨日は本年のハワイ婦人会・青年会・女子青年合同総会を、青年会本部より山澤昭造副委員長を迎えて賑やかに開催させていただき、参加者がそれぞれ会員としての自覚と情熱と使命感を高めさせていただきました。

私ども一同は一れつ人間の陽気ぐらしをお望み下さる親神様のお心に添わせていただき、教祖の道具衆として神一条喜び一条たすけ一条の道をハワイのこの地でしっかりと歩ませていただきます。この道にお引き寄せ頂いた私たちは今後も、をやのお心にしっかりと応えさせていただけるよう、日々成人への努力を積み重ね、身近な所でひのきしん・にをいがけ・おたすけ

に精進させていただく所存です。何卒親神様には私共のこの真心をお受け取り下さり、ハワイの道が伸展し、世界中の人々が元の親を知り一れつ兄弟姉妹の真実に目覚めて、互いにたすけ合い睦み合う真の平和世界である陽気ぐらしの世の状へと一日も早く立て替わりますようお願いのほどを、一同と共に慎んでお願い申し上げます。

## 祭 典 役 割

祭 主	山中庁長
扨 者	齋藤コーリン 稲福道興
賛 者	三國ウェスリー 美馬ブレイン
指図方	西村忠正
講話者	椎葉七重 (日)
通訳者	宮内ルミ (英)

	座りづとめ	前半	後半
てをどり (男性)	庁 長 T. 西村 C. 三國	C. 齋藤 M. 久尾 E. 高田	D. 明本 T. 岩田 B. 美馬
てをどり (女性)	庁長夫人 M. 柿谷 C. 明本	T. 中尾 S. 久尾 N. 椎葉	S. 中尾 Y. 一瀬 F. 伊藤
笛	Y. 宮内	D. 桧垣	B. 岩田
チャンポン	R. 山	D. 川崎	W. 城
拍子木	Y. 中尾	O. 中尾	D. 鈴木
太鼓	M. 社本	M. 稲福	S. 中尾
すりがね	G. 本田	S. 椎葉	S. 社本
小鼓	T. 美馬	G. 井元	M. 中尾
琴	C. 美馬	K. 金川	L. 金城
三味線	M. 三國	S. 柿谷	L. 長田
胡弓	J. 山	L. 本田	N. 熊本
地方	M. 岩田 T. 井上	T. 一瀬 W. 三國	K. 川崎 H. 山本

# 5月月次祭祭典講話

カイルアコナ教会長夫人 椎葉七重



ただ今は5月の月次祭を賑やかに陽気につとめ終えられ、まことにおめでとうございます。私は、庁長先生より「一年分のお徳を頂いてください」とお声をかけていただき、神殿講話のご指名を頂きました。私にお徳をいただける！私に勉強をさせていただく機会を頂ける！うれしくありがたいことと感謝の気持ちでいっぱいでございます。小さいころから人の前に出ることが苦手で、体の大きい割に気が小さくて恥ずかしがりの私ですが、本日この場に初めて立たせていただきます。英語の通訳をしていただきます宮内ルミ先生にお礼を申し上げます。どうぞしばらくの間お付き合いをよろしくお願い申し上げます。

## 私の生い立ち

私の父は、勉強が嫌いだった私に「若い時にはしっかり勉強しなさい。大学に行きたくないなら、おちばの専修科に行きなさい」と強く勧めてくれました。私は、専修科は教理を学ぶ所だと簡単に考えておりましたが、そうではありませんでした。1年目では、新入生は3日間の合宿修練で始まり、まず挨拶、返事、点呼など、喉で声を出さず、グループで腹の底から声を出す訓練を受けるのです。夜中にホイッスルで「起床」の呼びかけで、5分以内に素早くきれいに、布団やシーツを元通りに収納して、着替え、廊下に並び点呼。また布団を敷いて、着替えて休む訓練を何回も繰り返しスムーズにできるまでしました。職員室の入室・退室の作法。食事は素早

く食べ、回りの様子を見て職場の先生や講師の先生の食器を下げる。2年間の学校生活で必要な専修科生としての基本態度を3日間の修練で習得したのです。

天理時報のカメラマンが取材に来ましたが、私たちの必死に訓練している姿を見て、ただ「頑張ってください」と言って、取材を止めて帰りました。私はこの修練の最中、ふと父親は自分の娘がこんなきつい訓練を受けるなんて知っていたのかなあ、と不足に思いましたが、いつのまにか同級生と自然に仲間となり全力で力を合わせ、慰め合い、励まし合う心が湧いていました。そんなお道の友だちに巡りあうことができ、頑張ることができました。

2年目になりますと卒業論文の制作となります。論文指導の担当は、私が最も怖い先生と恐れていた一年生の入学修練のとき、剣道の竹刀を振り回しておられた第二専修科の安井先生でした。ご挨拶がありました。

「この世の中は、一所懸命努力すればいい結果になる。いい結果が出ないはその人の努力が足りないのだ。自分の努力次第なのだと言う方がとかく多いです。もちろん努力することは大切です。けれども、努力だけがすべてではないのです。たとえば農民が作物を作るとき、種を蒔き、肥しを置く。消毒し除草する。そして一生懸命丹精をします。そうしますと秋には素晴らしい収穫が頂けるかという、必ずそうなるとは限りません。一生懸命努力をしたけれども、天候不順で、ちょうど水の欲しいときに雨が降らなかった。台風がきて、咲いた花を全部散らしてしまっただけでは、いい結果は出てこないのです。農民の努力の上にお天気という神様のご守護を頂いて初めて収穫というご守護があるのです。これは農家のことに限らず全てのことがそうなのです。努力の上に、神様のご守護を頂いて初めて、収穫が頂けるようになってくるのです。

人間の努力の上に神様のご守護を頂いて初めて成ってくる。人間の努力が三分なら、神様のご守護は七分です。神様の十全のご守護を頂けるよう、おぢばでの朝夕のおつとめに参拝させていただきなさい。」

とお諭してくださいました。安井先生からこのお話を聞いて、私は気合いが入り、やる気が出て、卒業論文のテーマに「おつとめ」を選ぼうと心を決めました。専修科で学んだ「おつとめ」のお話をさせていただきます。

### かぐらづとめ

おつとめには、おぢばのかぐらづとめと、朝夕のおつとめ、それぞれの教会のおつとめとがあります。教会のおつとめはおぢばの理を頂いてつとめます。

さて、かぐらづとめは、教祖100年祭の年、東西礼拝場ふしんで上段改修されて、眞座がひろくなり、私たちの目でかぐらづとめを拝ませただけのようになりました。おぢばのかぐらづとめには、10人のつとめ人衆の先生方がおつとめを着て、上段から眞座へ階段を下りて行かれます。つとめ人衆の人々はかぐら面をかぶり、かんろだいを囲んでつとめられます。みかぐらうたに合せて九つの鳴り物が奏でられ、参拝場を埋め尽くす信者さん方もみかぐらうたを唱う中で、おつとめがつとめられます。

「北 くにとこたちのみこと」

水の守護の理。真柱様がおつとめになられます。赤い獅子面、面の口が開いて髪の毛が白いです。

「南 をもたりのみこと」

火の守護の理。南で、奥様が赤い獅子面をかぶり、面の口が閉じております。あうんの呼吸と申します。

「北西 月よみのみこと」

骨つぱりの守護。男の先生が男面をかぶり、鼻が天狗のように長い。髪の毛が赤っぽい髪の毛をして、背中に鯨を背負う。

「東南 くにさづちのみこと」

カメは土色、女一の道具皮つなぎ。

「東 くもよみのみこと」

飲み食い出入り、水気上げ下げ。出すということだと思えます。出すから入ります。

「西 をふとのべのみこと」

これは引き出しの守護の理、男面をかぶります。

「南西 かしこねのみこと」

男の先生が男面をかぶります。風の守護の理、息吹分け

「北東 たいしよく天のみこと」

ご婦人の先生が女面をつけます。

かんろだいの東側で、「北 いぎなみのみこと」「南 いぎなぎのみこと」このお二方は向かい合わせです。

かぐらづとめは18回まで10人とも同じ手振りで、18回と19回の間合図木の音が一つ入ります。あと3回、たいしよく天のみことの手振りが切る手変わり、合図木は21回の後にも入ります。このたいしよく天のみことの3回の手振りは、やまいの根、むほんの根を切る手振りです。

(教会のおつとめでは20回と21回の間と21回に合図木が入ります。)

### つとめ人衆の位置とご守護

10人のつとめ人衆のお立ちくださる位置には深い理合いがこもっています。

「くにとこたちのみこと・をもたりのみこと」

月日の理合いで、水と火、温み潤い、という向かい合わせです。

「くにさづちのみこと・月よみのみこと」

女・男一の道具の重い理で、つなぎとつぱりとの向かい合わせです。

「くもよみのみこと・をふとのべのみこと」

向かい合わせで、くもよみのみことは飲み食い出入りの働き、水気上げ下げのお働きです。をふとのべのみことは、農作物をはじめ引き出し一切のお働きです。

「かしこねのみこと・たいしよく天のみこと」

向かい合わせで、かしこねのみことは人間の息

吹分け、世界では風のお働きです。

人間が生まれるとき、たいしよく天のみことが親子の胎縁をお切りください、をふとのべのみことが引き出してください、くにさづちのみことが元々通り後仕舞のご守護を下さいますので、「おさん」と言います。そして胎内の羊水のなかでは呼吸していなかった赤ちゃんが、かしこねのみことのお働きで、出産と同時に呼吸しはじめます。人間出直しのとき、たいしよく天のみことが息を引き取ってください。

### 生きる上で一番大切な教え

かぐらづとめの理合いによって、私たちが生きていく上で大切な心の置き所を教えられています。人間誰しも必ず一度は死にます。せめて死ぬときには、苦しまないで、ぽっくり死にたいと思います。考えてみますと、自分が死ぬということは、今自分が生きている延長線上にあります。死ぬ日までは生きているからです。ということは、よい死に方をするには良い延長線を歩む生き方をすることなのです。悪い生き方をすると、その延長線の先には悪い死に方が待っています。自分の力では息を引き取れないのですから、良い生き方をして、出直しのとき、たいしよく天のみことにしっかりとお礼を申し上げて、息を引き取ってもらわなければなりません。

また、素晴らしい往生を遂げるには、かしこねのみことのご守護の頂き方が大切です。息というのは呼吸です。吹きわけは言葉です。日々常に親神様の思いに添う言葉を使います。親神様の人間に陽気ぐらしをさせたいという思召に添う言葉、ありがたい、結構という感謝の言葉を日々使っておりますと、かしこねのみことのお働きを十分頂き、出直しのとき、たいしよく天のみことが鮮やかに働きくださいます。

### てんりわうのみこと・「みこと」と言うとき

みことというのは、漢字で「命」という字をあてます。私たちの命すべての元になる働きを手振りて表わされています。しかもそのとき「みこ

と」で前に出られます。10人のつとめ人衆が前に出てかんろだいの側に寄る、そして一斉にそれぞれの理の手振りをされます。神様はいつでも動きがあります。

### 清水先生の「ご招待」

昨年（2015年）4月、おぢば帰りしていた私に、私どもの中和所属の清水先生から「4月26日の本部のおつとめに招待するから、26日朝の中和大教会の朝の神殿掃除から参拝にいらっしやい」と声をかけてくださいました。この先生は、毎月26日の本部月次祭に21年間欠かさず、かぐらづとめに参拝し続けておられます。「招待！招待だなんて面白いと言われるなあ！」と思いましたが、参拝できる嬉しさで「はい、わかりました」と受けました。私は興奮して、朝2時に起きて3時には南礼拝場に行かせていただきました。清水先生は、前日25日夕づとめからそのままその場所を動かず、席取りをしてくださっていました。神殿の前は、25日の夕づとめから陣取られている方でいっぱいでした。南礼拝場の正面の真ん中に清水先生が、私の席を用意していただいております。そのとき「招待」と言われた意味が分かりました。

それから待つこと5、6時間！かぐらづとめを、その実際のお姿を初めて見させていただいたとき、私は「わあすごいな！神々しいな！おごそかだな！親神様の十のお働きを頂いて私たち人間は、今から9億9万年前にまだ泥海であったときに、ここで、このぢばで私たち人間を造っていただいたんだ」と実感しました。「親神様の十全のご守護によって、いま私たち一人ひとりが生かされているんだ」とそう感じました。

かぐらづとめで、あしきはらひのおつとめは21回つとめられます。10が2つで「十分たっぷり」親神様のご守護を受けて新しい生命が始まるということ。「一は始まる」と、高井直吉先生が教祖からお聞きになったお話の中にございます。「ちよいとほなし」これは一度だけ。「いちれつすましてかんろだい」は7回、7回、7回で7回を三

度つとめられます。

教会の月次祭では、いちれつすましては3回、3回、3回で、9回です。9回という理は、私たち体の目、耳、鼻、口、右手、左手、右足、左足、一の道具です。この9つの道具を親神様からお借りして使わせていただく。その感謝の気持ちをいつも忘れずにお礼を申し上げながら、つとめさせていただきます。そうした上から教祖は9回つとめる、とお教えいただいております。

### 胎児の鼓動とおつとめのリズム

ある教会長さんが、たまたまテレビで、妊娠中の母親のお腹の中の音を聞く実況の紹介を視聴していた話を聞きました。お腹に機械をあてがって心音を聞くと、どんな音がするかと言いますと、「ドッキン、シャー」「ドッキン、シャー」こういう音なのですね。「ドッキン」は心臓の鼓動の音、「シャー」は心臓から送り出される血液の流れる音、それで「ドッキン、シャー」と聞こえます。それを視聴していた教会長さんは「この命のリズムの音は、おつとめの拍子木とちゃんぽんで、「カチ チャン カチ チャン」と打つ音に似ていると思われました。拍子木の「カチ」は心臓の鼓動、チャンポンの「チャン」は音がつながってます。血液の流れる音、「この生命のリズムはおつとめのリズムだな」とテレビを見ていた教会長さんは感じられたとお聞きました。

教祖は、「一つの手の振り方間違っても、宜敷ない。このつとめで命の切替するのや。大切なつとめやで。」（『稿本天理教教祖伝』95頁）と仰せられています。

このおつとめによって、たとえあと3か月だ、あと半年だ、という短い命でも、足りない命を足していただける命の切り替えをしてくださいます。教会の上段というところは命の切り替えをしてくださる理のある場所なのです。

### 「六だいの理」

教会のおつとめは6人でお手を振ります。この理合いというのは、おさじづに、

「六だいの理、それより理を始める。……六だいの理を以て始めかけ。」（さ22.5.25）というおさとしにもとづいています。（『天理教事典』957頁）

この「六だいの理」というのは、くにとこたちのみこと・をもたりのみことをはじめ、くにさづちのみこと、月よみのみこと、くもよみのみこと、かしこねのみことの六柱を指しています。「ろくだい」は「身の内ろくだい〈六体〉」（『改訂正文遺韻』129頁）とも言われています。（なお「六だいの理」と区別されて「ろくだいはじまり」といわれているのは、くにとこたちのみこと、をもたりのみこと、いざなぎのみこと、いざなみのみこと、くにさづちのみこと、月よみのみことの6柱で、人間創造の道具衆を指しています。かんろだいが六角形であるのは、この理によると教えられています。）

### ありがたいおつとめ

おつとめをつとめさせていただくときにありがたいと思いますのは、お姿は見えないけれども、みかぐらうたを唱えているとき、おふでさきを拝読させていただいているとき、教祖の直々のお言葉を聞かせていただくことができることです。これはありがたいことだと思えます。みかぐらうたを一途に真剣に唱えさせていただくことによって、ご存命でお働きくださる教祖のお力を実感することができるからです。

### 月次祭のおつとめ

月次祭のおつとめは、おぢばのかぐらづとめの理を頂いてつとめさせていただきます。教会に参拝している人々、教会につながっている人々の、すべての心のほこりを払ってくだされ、人々にかかる身上・事情は申すまでもなく、悪しきいんねんを切って、陽気ぐらしをさせてくださるつとめです。そして、世界中の人々の幸せを祈り、一日も早くおぢばにかんろだいの石普請が完成することを願う、おつとめでございます。

## ひながたの道50年

教祖のご生涯は立教以来50年、おつとめ完成に向かうご生涯でございました。教祖自らみかぐらうたをおつくりになり、節をおつけください、手振りを教え、鳴り物を教えくださりました。そして政府の厳しい弾圧の中でもおつとめを急き込まれて、幾度も警察や監獄への投獄というご苦勞をしてくださいました。教祖は世界たすけのため、50年の長きにわたって、ひながたの道をおつけくださいました。

そして明治年の陰暦正月26日、かぐらづとめを急き込まれて、みんな命がけでおつとめをしたときに、そのおつとめの音をお聞きになりなが

ら、115年のご定命を25年お縮めになって、現身をお隠しになられました。それは、親神様が世界中いちれつのかわいい子供をたすけるためには、このおつとめによってたすかるのだという、深い思召がおつとめに込められているからです。

教祖は、ご存命のまま、元の屋敷にお留まりくださいされて、世界たすけの先頭にお立ちくださっています。この、親神様・教祖の思召を察したときに、私たちは本当に真剣につとめさせていただき、またにをいがけ・おたすけを通して、一人でも多くおつとめに参拝していただけますように、一生懸命に努力させていただきたいと思います。ありがとうございました。

## 合同総会での感話——美馬ブレイン(越乃國ハワイ教会)

おはようございます。まずはじめに、この総会の2週間前にこの感話の役を与えてくれたモーゼスにお礼を言いたいと思います。また、原稿を考えるのを手伝ってくれた家族にも感謝しています。

私のことを知らない方もいらっしゃると思いますが、私の名前は美馬ブレインです。私は天理教の教会で生まれ育ちましたが、それは私が生まれてから今までずっと天理教を心から信仰してこれたということではありません。私には男兄弟はおらず4人の姉妹と育ったことは、とても楽しいものでした。姉妹たちは私の面倒をいつも見てくれ、私を着飾るのが好きでした。母が私と上3人の4人の子を買い物に連れて行ったときは、店員が「4人姉妹ですか」と言っていて、母が「いいえ、女3人、男1人です」ということがしばしばありました。私はそのときはよっぽど女の子のようにかわかったのでしょうか。私はいつも男兄弟がほしいと思っていました。

私が7、8歳の頃、母が5番目の子を妊娠しました。母が家に帰ってきて、女の子だったよと言ったときのことをよく覚えています。私は泣いて「その子を返してきて、男の子がいい！」と言いました。しかし、妹が生まれると私はすごく喜び

ました。おそらく彼女がいつか男の子になると思っていたのでしょうか。しかし、それは叶いませんでした。若いときはそういう無謀な期待を持つものだと思います。

さて、およそ18年前、私は色々な事で悩んでいました。学校でけんかをし、授業や他の事も上手く行ってませんでした。両親に多大な心配をかけました。両親にとって幸運だったのは、男の子が私一人だけだったということです。私はいつも車や機械の製造に興味を持っていました。しかし私の回りには詳しい人はいなかったため、パールシティの有名なレースチームのメンバーに会いに行きました。彼らはもしこのチームの一員になりたいなら、ボスに聞かないといけないと言いました。

ある日、偶然そのボスに会い、私は緊張して何を言われるかわかりませんでした。彼に近づき、あなたのチームの一員になりたいということをお伝えしました。ほとんどの人はおそらく、この子は誰で、なぜ私に話しかけているのだろうと相手にしないかと思うのですが、彼は「今日の夜は何してる？話をしようか」と言いました。何が起こるかわかりませんでした。とにかく彼の家に行き、話をしました。彼の名前はスコットといいま



す。彼は私の年齢、見た目、知識などではなく、ただ私の内面を見て私がどんな人かというのを判断しました。その日から私はスコットといつも一緒にいました。私を弟のようにかわいがってくれました。彼は車の製造、修理のことから、私が何かを学んでくれるようにと彼の個人的な話まで、たくさんのことを教えてくれました。彼は自動車業界では有名だったので、私をたくさんの人に紹介しましたが、多くの人は「なぜそんな若い子の面倒を見てるの？」と言いましたが、彼はいつも「ただこの子がたすけを必要としているときに面倒を見るだけだ」と言いました。みんな彼を尊敬していたので、彼のすることに反対しませんでした。私は、ただ尊敬しているというだけで、みんなが彼の決定に従うのに驚きました。尊敬というのはお金で買えるものでも、またただ単にその人の知識や役職から得られるものでもないということを学びました。

スコットは宗教に疑問や疑いを持ち、何かを信仰しているということはありませんでしたが、彼と長い間一緒に過ごして、いろいろな話をしているうちに、彼は天理教の教えに興味を持ちました。実際彼はすでに親神様の教えを意識せずに実践していると思っていました。毎晩他人の家の屋根の修理をするなど、何でも自分に出来る人助けをしていました。一緒に飲みながら、人生、希望、夢、目標についてや他愛もない話をするのは、いつもそれらの仕事を終えてからでした。深い話をすることもしばしばありました。おもしろかったのは彼は酔っていないときよりも、酔っているときの方がそういった深い話をよくしてくれました。彼のモットーは「人生は一度きり、好きなことをして人生を楽しむ。自分がしていることが正しいと思うなら、他の人がどう思おうが言おうが気にしない」でした。彼はまさに兄のような存在でした。私の卒業式にも来てくれましたし、朝5時に道ばたで寝ていたら家まで送ってくれたこともありました。

2007年、スコットは家で倒れました。幸いにも彼のルームメイトが家にいて、すぐに救急車を

呼び、病院に運ばれました。私は電話を受け、彼は救急治療室にいて、状態はわかりませんでした。あまり良くないとのことでした。最初に私の心に浮かんだのは父に来てもらい、おさづけを彼に取り次いでもらうことでした。私は彼の両親と婚約者にそのことをお願いしたところ、おそらく彼もそれを望んでいるだろうと言って、了承してくれました。父がおさづけを取り次いでいる間、スコットが涙を流すのを見ました。彼が自分の身に起こっていることを理解したと思い、少し安心しました。彼の肝臓は長年の飲酒のせいでゴルフボール程の大きさに縮んでいました。

その後何日間か彼のお見舞いに行きましたが、彼の状態は良くなり、退院の許可をもらいました。退院した後は、私たちの教会におさづけを取り次いでもらいに来るようになりました。状態は良くなりましたが、まだ治療が必要で、肝臓移植の順番を待っていました。それから一ヶ月ほど経ったとき、彼は仕事に復帰し、結婚もしました。飲酒は完全にやめなければなりませんでしたが、それまでと同じように他の人のためにできることはなんでもし、人生を楽しんでいました。彼自身の苦しみや痛みに対する不満は決して言いませんでした。

それからおよそ5年後、彼が入院したという電話を受けました。私は父に電話をし、病院で彼におさづけを取り次いでもらうよう頼みました。私が病院に着いたとき、彼は検査中でした。待合室で彼の家族や友人など大勢の人と一緒に待っていると、自分の無力さを感じました。私の父は彼の元へ行き、おさづけを取り次ぐ許可をもらいました。スコットの母が泣きながら病室から出てきて、私にハグをし「いつも彼の良き友人でいてくれて、いつも一緒にいてくれてありがとう」とお礼を言いました。この時私は、あまり彼の状態が良くないのだと思いました。私は彼女に「スコットは長年にわたって私を本当の弟のように面倒を見てくれました。そんなすばらしい、心優しい息子に育ててくださってありがとうございます」と言いました。その後、私は病室に入り、彼の顔を

見ることが出来ました。彼は脳動脈瘤と血友病のため、植物状態で、出血が止まりませんでした。私は両親と共に毎日、奇跡を信じて、おさづけを取り次ぎに彼の所へ通いました。

その後、彼が生命維持装置をつけて二日目の晩に、スコットの奥さんが私を呼び、医者に生命維持装置を続けても彼の状態は良くならないだろうし、悪化するだけだろうから、生命維持装置を外すかどうか明日までに決めるように言われたことを私に伝えました。彼女はどうするべきかわからないと言いました。これは誰にも簡単に決められるようなことではありません。私はどう言っているのかわかりませんでした。唯一言えたことは「あなたにとって信じるのは難しいかもしれませんが、親神様にしっかりとたれば、神様が一番いいようにして下さるから、決断のことは考えずに、ただただ神様にもたれることだけを考えてください」ということでした。そのときはもう夜中になっていたので、私は家に帰り、親神様に彼と彼女をたすけていただけようお願いします。

翌朝、彼女から電話があり、彼と二人で病室にいるときに、彼は安らかに死したということでした。そのときは、日曜の朝でいつも彼と彼女が朝食を食べる彼の一番好きな時間でした。彼に最後のお別れを言うためにみんな病室に集まりました。私の父は私に彼が魂が生まれ変わる前の最後のおさづけを取り次がせてくれました。これは私にとって一番つらいおさづけの取り次ぎでした。未信者の方ばかりの中で、私は涙を流しながら、彼に最後のおさづけを取り次がせていただきました。彼の母は私にハグをし、泣きながら、いろいろとありがとうと言いました。

その後、私は彼のお葬式を私の父に天理教式で執り行ってもらえないか聞かれました。父は、私の息子が本当にお世話になった人だし、是非させていただきたいと言いました。彼の親戚の中には、スコットと彼の奥さんの家族は仏教を信仰しているのに、なぜ天理教式でお葬式をするのかと反対する人もいましたが、彼の両親は仏教を信仰している家には生まれたけれど、熱心な仏教の信

者ではないということでした。私は彼の家族や親戚に迷惑をかけたくなかったので、みなさんのいよいよお葬式をしてあげてくださいと言いましたが、彼の両親と奥さんは親戚にこれは彼が望んでいることだから、天理教式でしてあげようと言いました。

お葬式の日、私は追悼の言葉と祭官を務めることになっていたのに緊張していましたが、家族の支えもあり、お葬式を無事に務めさせていただきました。350人以上の人が参列しました。多くの人がお葬式の後に、彼らが今まで聞いたことのない天理教について私たちの元に尋ねに来ました。彼らはお葬式がとても良かったと喜んでくれていました。これはスコットが、私が少しでも成長できるようにと、にをいがけの機会を最後に与えてくれたのではないかと思います。たくさんの方が彼の生き方を尊敬していたので、彼は信者ではなかったにしろ、彼が信じていた教えに興味を持ち、どんな教えか知りたいと思ったのだと思います。

そのとき以来、彼の母は私の教会の月次祭に毎月参拝してくれるようになりました。彼女は一人息子を失いましたが、いつも私をかわいがってくれ、私がいることを喜んでくれます。私はこれらの親神様の手引きにより、自分の信仰を強くさせていただきました。私が兄を失ってから3年以上が経ちますが、彼のことを考えない日、また彼が教えてくれたこと忘れる日はありません。これはただの偶然かもしれませんが、実は今日は彼の誕生日なので、彼の話をさせていたでこうと思いました。

最後にみなさんに彼がいつも私に言っていた言葉を紹介して、私の感話を終わりたいと思います。

「君がどんなにいい職に就いていても、どんなに人生ですばらしいことをしても常に謙虚でいなさい。絶対に君よりすばらしい人はいるし、誰も自分より偉いと思う人を助けたり、何かを教えようとは思わないから。」

ご静聴いただきありがとうございました。

## 婦人会だより

婦人会・青年会の合同総会には大勢の方々にご参加いただき、ありがとうございました。親子で参加された方も、孫までの三代揃って参加された方もおられました。親から子へ、信仰の喜びがいつまでも受け継がれますように今日も一日、言葉と行いに感謝を込めて通らせていただきたいと思います。

### ■バザーひのきしん（毎週水曜日）

ウエストハウス 9:00 - 12:00

### ■ヌアヌハレ慰問

6月11日（土） 9:30

### ■月例会

6月13日（月） 9:00

### ■鳴物練習

6月14日（月） 9:00

※今月の直会当番は、合同Aグループです。

## 少年会だより

### ■夏のこどもおぢばがえり

日程は7/24～7/30。航空チケットはそれぞれ個人で予約をお願いします。38母屋のチェックインは24日午後4時、チェックアウトは30日午前9時（ハワイ団）、午前10時半（少ひ隊）となっています。海外少年ひのきしん隊、またはアロハバンドのメンバーには航空チケット代の助成があります。申し込みは伝道庁または中川オードリーまでご連絡ください。

6月26日、夜7時からお願いづとめをつとめさせていただき、おつとめに続きオリエンテーションを行いますので、こどもおぢばがえり参加者は参加願います。

## 6月行事予定

- 2日（木）・月例コミュニティーひのきしん
- 4日（土）・女子青年勉強会
- 6日（月）・月例にをいがけデー
- 7日（火）・天理文化センター月次祭
- 10日（金）・Adopt A Hwy清掃ひのきしん
- 11日（土）・婦人会ヌアヌハレ慰問
- 13日（月）・婦人会例会
  - ・TCC&文庫ジョイント委員会
- 14日（火）・婦人会鳴物練習
- 15日（水）・青年会会議
- 16日（木）・少年会会議
- 18日（土）・主事会
  - ・学生会ひのきしん
- 19日（日）・月次祭
  - ・サンデースクール/アロハバンド
  - ・教会長布教所長会議
  - ・天理フォーラム会議
  - ・ハワイ修養会（～7/14）
- 20日（月）・ワイキキ神名流し
- 24日（金）・青年会教祖伝勉強会
- 26日（日）・遥拝式
  - ・バザーブースヘッド会議

### ジョイワークショップ

ワヒアワ教会 9月4日（日）午後1時  
（ジョイワークショップの詳細は、鈴木ダレル（227-4884）までお尋ねください。）

TENRIKYO HAWAII DENDOCHO

2920 Pali Highway Honolulu, HI 96817

Phone : (808)595-6523 Fax : (808)595-7748

E-mail : dendocho@tenrikyo-hawaii.com

**感謝、慎み、たすけあい**

**陽気ぐらしのキーワード**

## 第61回天理教ピクニック

日時：2016年7月4日（月）午前9時～午後2時

場所：カピオラニ公園